



イギリス

多くのATMが閉鎖される危機

- Which? ホームページ <http://press.which.co.uk/whichpressreleases/which-urges-the-regulator-to-intervene-over-future-of-atm-network/>
- 英国議会 ホームページ <http://www.parliament.uk/business/committees/committees-a-z/commons-select/treasury-committee/news-parliament-2017/atm-fees-link-consultation-letters-17-19/>

ほか

イギリス最大のATM(現金自動預け払い機)ネットワーク企業は、7万台近くを運営・管理している。そのうち約5万台については利用者の引き出し手数料は無料で、カード発行者である銀行等が負担している。

この手数料負担を下げたい銀行からの圧力を受けたとされるネットワーク企業は、この度、銀行の負担分を引き下げると発表した。

これについて、手数料は無料ATMを供給し、維持管理を行う企業の収入となっている。そのため手数料の引き下げで機械の保守・管理等が困難になり多くのATMが閉鎖に追い込まれ、消費者に多大な不便が生じるとWhich?は懸念している。

さらにWhich?は現在も約270万人がほぼ現金だけで暮らしていることから(イングランド銀行調

べ)、消費者への影響を緊急に調査するようPSR(決裁システム監督機関)に求めた。また手数料の設定・改訂は政策や競争法が絡む重要な問題であるとして、十分な検討が必要であるとも指摘している。

相次ぐ銀行の支店の閉鎖(2015年で1962店舗)もあり、特に地方の住民などはますますATMに頼らざるを得ない。Which?は、PSRが詳細な調査を行い、現金を引き出す別の手段が保証されるまで手数料引き下げに対し介入するよう求めている。

本件は議会財務特別委員会でも取り上げられ、委員長は経緯が不透明で無料ATMネットワーク維持の保証もみられないと断じた。そのうえでPSRに対し必要な対策や措置を講ずるよう要請し、必要に応じ各銀行、ATM設置者等に説明を求めるとしている。



アメリカ

ビオチン・サプリでトラブル

- FDA ホームページ <https://www.fda.gov/medicaldevices/safety/alertsandnotices/ucm586505.htm>
- CR ホームページ <https://www.consumerreports.org/vitamins-supplements/the-trouble-with-biotin-supplements/?loginMethod=auto>

ほか

ビオチンはビタミンB₇とも呼ばれるビタミンで、ある種のたんぱく質と結合しやすい特徴からホルモン検査や血液検査などに幅広く使われる一方で、ハリ・ツヤのある毛髪や皮膚等に効果的としてマルチビタミンなどのサプリに含まれることが多い。

しかし、このほどFDA(食品医薬品局)はビオチンによる作用で著しく検査の結果が歪曲される危険性があると、医療従事者などに警告した。これまで複数の検査値の異常と少なくとも1件の死亡例が報告されているという。死亡例は患者が検査前に高濃度のビオチンを摂取したため心筋梗塞の兆候であるトロポニンの値が低くなり、疾患が見逃されたためとみられている。また治療目的でビオチンの大量投与が行われる場合もある。このため、医師は検査前にビオチンの摂取の有無を確認すること、患者は検

査前に申告することが重要である。ビオチン摂取中に検査を受けた場合は、医師に伝え再検査などの必要性を尋ねるべきである。最善策は検査前のビオチン摂取の中止であるが、体内からその影響が消滅するために必要な期間は、FDAでも確かな根拠がなく、とりあえず1週間の中止を勧めている。

サプリの中にはビオチンを20mgも含むものもあるが、1日当たりの必要量は0.03mgで、卵黄や肉などに含まれるため通常の食生活で十分摂取できる。また、毛髪などへの効果は科学的に証明されていない。CR(コンシューマーレポート)は、医薬品より規制が緩く、含有量や危険性などがラベルに記載されていない場合も多いと批判しており、より多くの消費者が危険性を認識するためには事業者によるラベル表示などの情報提供が必要であるとしている。


ドイツ

「竹素材」のエコなイメージにだまされないで

- CVUA Stuttgart ホームページ http://www.cvuas.de/pub/beitrag.asp?ID=2609&subid=1&Thema_ID=3&lang=DE
- バーデン・ビュルテンベルク州農村地域・消費者保護省 ホームページ <https://www.baden-wuerttemberg.de/de/service/presse/pressemitteilung/pid/kunststoff-in-bambusgeschirr-nachgewiesen/>

ドイツ人にはコーヒー好きが多い。最近目立つのは、コーヒーショップの使い捨てカップを片手に歩く人の姿である。使い捨てカップを利用すると廃棄物が大量に発生することから、資源の無駄遣いではないかと指摘されている。

そこで、再利用可能な容器を採用し、デポジット制に切り替える店も現れた。再利用可能な容器として増えているのが、竹繊維(バンブーファイバー)を原料に使用するものである。これは竹材をそのまま加工して成型する竹工芸品とは異なり、竹素材を含むかどうか外見からは分かりにくいのが特徴である。生育が早く、土に帰る竹を原料とするうえ、繰り返し使用できるとして、環境にやさしいと強調する宣伝が多い。CVUA Stuttgart(化学・獣医学研究所)はこのような食器に注目し、数年前から調査を続け

てきた。今回は竹素材を原料に含む35製品(約半数が持ち帰り用コーヒー容器)のテストを行った。

その結果、竹素材の割合が低く、主な原料はメラミン等の合成樹脂であるにもかかわらず、31製品で消費者をだます広告を行っている実態が明らかになった。しかも、そのうち11製品ではメラミンまたはホルムアルデヒド(もしくは両方)の数値が著しく高かったという。また、広告には問題がない4製品も、EU域内で流通するための適合宣言書に不備があったことから、今回テストしたすべての製品について、販売されるべきではないと結論づけた。

バーデン・ビュルテンベルク州消費者保護大臣は、エコなイメージを強調する「竹素材」食器の販売方法を問題視する。今後も同様の調査を続け、表示適正化のために行政措置を発動するとしている。


オーストリア

推奨できない食物アレルギー検査キット

- VKI「消費者」2017年12月号 <https://www.konsument.at/cs/Satellite?pagename=Konsument/MagazinArtikel/Detail&cid=318902950635>

ドイツの病院がアンケート調査を行ったところ、食品に対してアレルギーまたは不耐症を持つと思うと回答した人は、3分の1以上だったという。しかし、病院で検査を受けると、そうではないと診断されることが多い。そこで、もっと手軽にアレルギー等の有無を知りたいという消費者の需要を受け、さまざまな検査キットがネット販売されている。VKI(オーストリア消費者情報協会)は、ウィーン市内の病院の協力を得て、このような検査キット10商品のテストを行った。

テストに当たり、まず1商品ごとに10名の被験者が、検査キットをネットで購入した。自宅で採血した検体を指定の送付先に送ると、検査結果が返送されるしくみだが、今回は被験者が併せて病院の検

査・診断を受け、検査キットによる判定と比べた。その結果、推奨に値する商品は1つもなかったという。中には、病院での検査結果とかなり合致する商品もあったが、被験者には数値の書かれた紙片が送られるだけで、医師の診断など、一般人でも分かる説明がなく、完全には推奨できないと判断された。

それどころか、重篤な乳アレルギーを見落とすなど、誤った検査結果が出たため、使用すると危険だと判断された商品もあった。また、アレルギーのない人にも存在する抗体を根拠として、原因食品を判定する商品があり、この検査結果を信用して、アレルギー原因ではない食品まで除去すると、健康被害を招くおそれがあると同協会は警告している*。

* 日本小児アレルギー学会は同旨の注意喚起を実施。 <http://www.jspaci.jp/modules/membership/index.php?page=article&storyid=91>